第6回国際エクロジャイト会議の記念碑とその材料となったエクロジャイトの転石

青矢睦月*・平島崇男**・高須 晃***・榎並正樹*・Simon Wallis*・榊原正幸****

Mutsuki Aoya, Takao Hirajima, Akira Takasu, Masaki Enami, Simon Wallis, and Masayuki Sakakibara : Monument for IEC2001 made from a loose block of well developed schistose eclogite from the Besshi area, Japan.

* 名古屋大学大学院環境学研究科地球環境科学専攻 Division of Earth and Planetray Sciences, Nagoya University, Nagoya 464-8601, Japan

** 京都大学大学院理学研究科地質学鉱物学教室 Department of Geology and Mineralogy, Kyoto University, Kyoto 606-8502, Japan

*** 島根大学総合理工学部地球資源環境学科 Department of Geoscience, Shimane University, Matsue 690-8504, Japan

**** 愛媛大学理学部生物地球圏科学科 Department of Earth Science, Ehime University, Matsuyama 790-8577, Japan

2001年9月17日受付。2001年11月29日受理。

2001年の9月1日から7日に渡り、愛媛県の新居浜市、土居町、別子山村を舞台に開催された国際エクロジャイト会議（IEC）の記念碑が別子山村の瀬場に建立された（Fig. 1）。材料となった重量10トンにも及ぶエクロジャイトの転石（Fig. 2）は1998年、京都大学の岩石学グループが別子巡検を行った際に瀬場谷川下流域で見つけたものである。極めて保存の良い美しいエクロジャイトであったため（Figs. 3-5）、昨年11月、IEC記念碑の建立を計画していた別子山の村長らにその転石を紹介したところ、村側も大変気に入り、即、採用の運びとなった。

Fig. 1. (a) 四国三波川帯、別子地域の地質図（Higashino (1990) に基づく）。記念碑の建立地が示されている。(b) 第6回国際エクロジャイト会議記念碑の写真。

その後、運び出し、切断、研磨といった作業を経て、IEC 目前の8月下旬には転石は立派な記念碑に生まれ変わり、IECの巡検では最も好評の案内地の一つとなった。この記念碑は、IECを機に別子のエクロジャイトをいつまでも保護し、後世に伝えていこうという別子山村の人々の熱意の結晶である。

文 献

- Higashino, T., 1990, The higher grade metamorphic zonation of the Sambagawa metamorphic belt in central Shikoku, Japan. *Jour. Metamor. Geol.*, 8, 413-423.
- Aoya, M., and Wallis, S.R., 1999, Structural and microstructural constraints on the mechanism of eclogite formation in the Sambagawa belt, SW Japan. *Jour. Struct. Geol.*, 21, 1561-1573.

Fig. 2. 記念碑の材料となった転石の発見時の写真。片理を曲げるキンク状の褶曲や片理を横切る角閃岩脈（写真左側）が観察される。

Fig. 3. 転石中でエクロジャイト（ザクロ石+オンファス輝石）の保存が良い層の拡大写真。白く輝いて見える部分は白雲母が多い。レンズキャップの直径は3.2cm.

Fig. 4. エクロジャイトのスラブ写真（縦幅4cm）。ザクロ石は赤い斑状変晶を成し、最大6mmまでの様々な粒径を示す。緑色の基質の大部分を占めるのはオンファス輝石である。

Fig. 5. エクロジャイトの薄片写真（横幅5.7mm）。ザクロ石の自形性は極めて良い。また細粒、針状のオンファス輝石は基質の片理に沿った強い定向配列を示す。こういった片状エクロジャイトは瀬場塩基性片岩に特徴的に産する（例えばAoya & Wallis, 1999）ため、この転石も瀬場塩基性片岩から流れついたものと考えられる（Fig. 1a）。